

平成31年労第177号

主 文

本件再審査請求を却下する。

事実及び理由

第1 事案の概要

本件は、再審査請求人（以下「請求人」という。）が労働者災害補償保険法（昭和22年法律第50号）による障害補償給付の請求をしたところ、労働基準監督署長（以下「監督署長」という。）が○年○月○日付けで、請求人に残存する障害は、労働者災害補償保険法施行規則（昭和30年労働省令第22号）別表第一に定める障害等級表上の障害等級第11級に該当するものと認め、同等級に応ずる障害補償給付を支給する旨の処分（以下「本件処分」という。）をしたことから、請求人が本件処分の取消しを求める事案である。

請求人は、労働者災害補償保険審査官（以下「審査官」という。）に対し審査請求をしたところ、審査官が○年○月○日付けをもってこれを棄却する旨の決定をしたことから、更にこの決定を不服として本件再審査請求をした。

第2 請求人の主張の要旨

請求人の負傷に関する障害等級について、監督署長の決定は誤りであるから、本件処分は取り消されるべきである。

第3 理 由

- 1 再審査請求は、労働保険審査官及び労働保険審査会法（昭和31年法律第126号。以下「労審法」という。）第38条第1項の規定により、請求人に労働者災害補償保険審査官の決定書の謄本が送付された日の翌日から起算して2か月以内（以下「請求期間」という。）にしなければならないこととされている。
- 2 本件についてこれをみるに、郵便物等配達証明書によれば、審査官の決定書の謄本が請求人に配達された日は、○年○月○日であるから、本件再審査請求の請求期間は、その翌日から起算して2か月目に当たる日である同年○月○日までとなる。

しかるに、請求人が労働保険再審査請求書を当審査会に宛てて郵便により発信

したのは、○年○月○日であり、本件再審査請求は、法定の請求期間を経過した後
後にされたものである。

- 3 ところで、労審法第38条第2項において準用する同法第8条第1項ただし書
では、再審査請求が請求期間を経過した後にされた場合においても、請求人が正
当な理由により請求期間内に再審査請求をすることができなかったことを疎明
したときは、この限りでない定められている。そして、同項ただし書にいう「正
当な理由」とは、天災その他客観的にみて一般にそのような理由があれば誰もが
請求できなかったであろうことをうかがい知るに足りるものでなければならな
いものと解するのが相当である。
- 4 そこで、本件についてこれをみるに、請求人は、請求期間を経過した理由につ
いて、○年○月○日当審査会受付の「再審査請求にあたって」と題する書面及び
○年○月○日当審査会受付の「再審査請求嘆願書」において、要旨、「決定書の
内容を理解することができなかった。決定書を受け取った当時は、処方された薬
の副作用などにより、意識がどこにあるかわからない状態であった。」等と述べ
ているが、当該理由は、個人的な事情を述べているにすぎず、誰もが請求できな
かったであろうことをうかがい知るに足りる事情であるとはいいい難く、上記の
「正当な理由」について疎明したものとは認められない。
- 5 以上のとおり、本件再審査請求は不適法なものであってその欠陥が補正するこ
とができないものであるから、労審法第50条において準用する同法第10条の
規定により却下することとして、主文のとおり裁決する。